

平成 23 年度 すぎなみ大人塾（夜）コース

はじめてのソーシャル・アクション～つながりづくりの実践力を身につける～

平成 23 年 6 月 1 日（水） 19:00～21:00

会場：セッション杉並 視聴覚室

すぎなみ大人塾 第一回講座オリエンテーション 「つながりを考える」

学習支援者：広石拓司（株）エンパブリック代表取締役

学習支援補助者：手塚佳代子

NPO 法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー代表

1. 事務局より

杉並区教育委員会、社会教育主事 中曽根さんより挨拶

今日は一回目ということで、皆さん約 20 回これから夜 7 時に集まって頂きます。なかなか大変かもしれません。「自分をふりかえり、社会とのつながりを見つける。大人の放課後」ということで、運営の基本は「放課後」ですので、今日はちょっと調子が悪いなという時は休む時があるだろうし、仕事が忙しい、家で色々と雑事におわれてしまっという時もあるでしょう。大人として色々なつながりの中で、皆さん生活していると思いますので、1 度欠席するとどうなるというものでもないので、1 年後に自分がどんなふうになっているかなと、先の見通しを持ちながらですね、1 回、2 回、3 回、4 回、5 回くらいはですね、休むのはしょうがないかなあと思っております。

この大人塾、平成 17 年度から始まりまして、最初の頃は「この大人塾という名称は恥ずかしいからなんとか変えてくれないか」と言われたりしました。その当時、なんとか大学というのは多いのですが、大人塾という名前に恥ずかしがられまして、受け入れられなかったところもありました。今年度で 7 年目を迎えますと、年度を越えても「私は 2005 年の大人塾の卒業生です」とか「2008 年の大人塾卒業生です」とか大人塾を出たということが皆さんの中の、初めて会ったのだけれども気を許せるような共通の合言葉のようになっていたりして、事務局としてもとても嬉しいなと思っております。

この大人塾は、ここで学んで具体的に技術が身に付くとか、そういったことは目標にはしておりません。自分の生きている世界というのは、自分ではそれ

が社会という気がしているのですが、実は地域の中には色々な方が住んでいて、気がつかない部分に囲まれているのです。新聞って自分が関心を持たないと記事が目に入ってこないし、逆に関心を持つと今まで思ってもみなかったくらい、新聞って色々な情報が出ているのだなと目に付きます。それくらい皆さんが持っている、ひとりひとりの社会感とは独りよがりだったりすることもあるかなと思うのです。この大人塾では自分の周りの杉並のことや社会のこと、あるいはそこで色々な課題を抱えている方、あるいは自分自身の「もっとこういう社会になったらいいな」というものを皆さんお持ちかと思しますので、そういったものを、まずは集まったメンバー30人がお互いを師として学び合うような、そんなことを大事にしていきたいと思っております。

そういった皆さんの学びを深めていくために、具体的なアクション、実践をこのプログラムの中に組み込んであります。また皆さんが必要とされる知識、情報、「こんなことはどこかに事例がありませんか」とかそういったことは学習支援者の広石さんや手塚さんが、色々な情報を提供してくれたり、また皆さんの話し合いのサポートをしてくれたり、という形で関わってきます。そういった意味で講師がいて、何か知識を受け取るという学び方ではこの大人塾はないということだけは、最初にお話ししておきたいなと思っております。是非、ここで一緒になったというのも何かの縁ですので、横の方と交流し合って、例年、幹事を引き受ける方がいらっしゃって、夜コース 9 時に終わった後に呑みに行ったりもしておりましたし、職員も一緒になって呑みに行ったりということもしています。役所というどうしてもカウンターの内側に職員がいて、外側に区民がいるとそういう関係が多いですが、この社会教育センターの職員と皆さんとの関係はもっとフランクに、同じ杉並をよくしていくメンバーとして色々な意味で交流して、私たちも皆さんと仲間というくらいの気持ちで一緒に運営していきたいと思っておりますので、一年間少しリラックスしながらお付き合いいただければと思います。よろしく願いいたします。

手塚：一年間、皆様と一緒に大人塾を実行していく学習支援係、それからスタッフの自己紹介をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

まず学習支援者として、メインで皆様に情報提供やワークショップを実施する広石さんです。よろしく願いいたします。

2. 運営者自己紹介

広石：学習支援者を担当する広石と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ずっと色々な地域活動ですとか、コミュニティ作りを立ち上げたり、スタートする人のためのプログラム作りであったりですとか、トレーニングの講座に取り組んできました。その中ですぎなみ大人塾は、数年前に1度こさせていただいたのですが、昨年からは学習支援者ということで1年間お付き合いさせていただきました。

最初、すぎなみ大人塾で年間20回も講座をやるという話で、そんなに皆さん来るのかなとちょっと心配していたのですが、昨年も1年間やらせていただいて、本当に時間の中で皆さんがどんどん変わっていくところがあって、そういう現場に立ち会えたということが僕にとってもとても嬉しいことでありました。今年もまた皆さんが1年間の中で、色々なつながりを深めていくことが出来ればなと思います。やっぱり去年の受講生の人たちも、お互いが仲間としてつながっているのだから、なかなか地域の中でお友達が出来るとか、新しい仲間が出来る機会が案外無いと思うので、そういうふうな機会に皆さんしていただけたらなと思っています。

私の立場は、講座とか、セミナーという講師という立場になることが多いのですが、この大人塾が素敵なのは、学習支援者となっているところです。そういう意味では、昨年一年間振り返ってみた時に、皆さんの周りを応援しながらも講師っぽいところも強かったかなと思ったので、今年は皆さんの学びを後押しする、是非、皆さんが主役で僕たちを上手く使っていただければなというふうに思っています。そういう形で、今年もより皆さんが楽しみながら、人々とつながりながら何か出来るような時間にしていきたいなと思っておりますので、これからあと18回ですがよろしくお願いいたします。

手塚：それでは杉並教育委員会のスタッフの方にご挨拶をお願いいたします。

松坂：皆さん、こんばんは。私は杉並社会教育センターの松坂と申します。大人塾事務局として、これから皆さんと一緒に一年間、学んでいければと思っております。大人塾は三年目の担当で、杉並区には在住、在学、在勤として数十年、この土地で色々なことをしております。まだまだ杉並の魅力、色々な課題が自分でも分からないことがいっぱいありますので、一年間杉並の良いところだとか、こういうところをもう少し良くしていきたいというのを皆さんと一緒に発見しながら、学んでいきたいなと思っておりますので、一年間よろ

しくお願いいたします。

湊：こんばんは。同じく夜コースを担当させていただいております、湊と申します。何かあったら受付のところで相談して下さい。私は大人塾が開校したのが6年目くらいですが、そこからずっと携わっています。最初、大人塾って人に言うと変な講座なのではないかと他人に言われていたのですが、このところ少しずつ名前が浸透してきて良かったなと思っております。今年は30人ちょっとです。最後まで皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。色々大変だと思いますけど、お時間を作って毎回こちらの方においでいただければと思います。勿論、ご無理なさらさないで何回か休んでも大丈夫ですので、最後までご一緒させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

川上：同じくすぎなみ大人塾を担当しています、川上と申します。私は主に昼コースを担当させていただいているのですが、夜の方にも顔をださせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

手塚：私は区の間人ではありませんで、区内でNPO活動をしている団体の者です。主にここ7割位が杉並区内のことです、教育とかアート支援とかそういったことを色々地道にやり続けて8年目、NPO活動をしています。大人塾は今年で4年目を担当させていただいているのですがけれども、先程、広石さんがおっしゃっていたように先生と生徒という関係ではありません。皆さん、地域活動をされていらっしゃる方が多いと思いますので、教えあったり、新しい情報をいただくことも実は多いです。お互いに色々情報提供し合って、考えを共有していったりすると思いますが、放課後ってことですので気楽に関わっていただきながらも、一年間通して終わった時に、何かひとつでもふたつでもこういうことが良かったと思って下さればよいなと思っております。

また広石さんは会社も京都でしたっけ、杉並区民ではないので地元のことはあまりってことがあるので、そういう時だけ私の方でフォローさせていただいて、高円寺南二丁目で実は・・・ってことがあれば、私の方に言っていただければ、少しこんなことがありますよってお話をさせていただくこともあるかもしれませんので、何かあればお声を掛けて下さい。よろしくお願いいたします。

2. ガイダンス

手塚：早速、本題の方に入っていくのですけれども、これから一年間のガイダンス、それから年間を通してこんなふうに毎回テーマを設けて、前期、後期少しずつ目標を設定していますので、そちらのお話を広石さんの方からご説明いただきます。

<はじめに>

広石：今回、タイトルが「はじめてのソーシャル・アクション」で、実践力を身につけるってことに取り組みます。皆さんにお聞きしたいのですけれども、このタイトルを区役所の皆さんとディスカッションをして決めたのです。このタイトルで、1番ひっかかったのかを手を挙げていただければと思います。気になったキーワードを2つ選んでいただけたらと思います。

はじめての	1人
ソーシャル	70%
アクション	1人
つながりづくり	90%
実践力	90%
身につける	2人

昨年は「はじめてのソーシャル・アクション」という形で、サブタイトルはつながりという言葉はなかったのです。今年はより強く人と人のつながりということについて、どういうふうにやっていけばいいのか。昨年1年、ソーシャル・アクションという形で皆さんにやっていただいたのは「自分たちでワークショップを作ろう」ということでした。町の人たちと一緒に、町のことを考えるようなイベントを自分たちで実際に作ってみる。参加した方と町の方たちが実際にワークショップをやってみて、そこで一緒に考えるってことを通してさらに発見をする。そういうふうな1年間のプログラムをやってみました。その中で、1番何が生まれるのか、人と人との新しいつながりが生まれるのを確認しました。町と地域、町と人とのつながりが生まれる。1年間やってきた実感であった。今年のはつながりの実践力というところをより強化してやっていきたいなと思っています。皆さんがタイトルに反応して参加して下さったのは、頑張っただけでサブタイトルを付けた甲斐がありました。

もう少しだけ「つながり」ということについて考えてみたいと思います。改めて僕自身の自己紹介なのですが、エンパブリックという会社を2008年5月に作りました。それまで僕がずっとやっていたのは、社会起業家といわれる人たちやNPO、地域のために起業しようとしている人たちの応援です。社会起業家という言葉聞いたことのある方はどのくらいいらっしゃいますか。

例えば新しく自分で仕事を始め人には、大きく分けて2つのタイプがある訳です。1つはこれだったら儲かるからその仕事で起業しようという人がいる。ちょっと前だったら、携帯電話の取次店をやったら儲かるから、携帯電話をしようかなとか。ここら辺はラーメン店が無いから、ラーメン店やれば儲かるかなということで起業する人がいる。一方で地域社会の中でこういうサービスが足りないな、困っている人がいるのにこういうところでまだまだこういうサービスが足りないのではないかな、だから自分で新しく事業をスタートしたいなってそういうふうな人もいますね。むしろ後者の方の人ですね、より地域の中とか社会の中で困っている人がいるのではないかな、そういう人のために何か新しい事業を作りたい。そういう時に新しく自分で仕事を作っちゃおうという人を社会起業家というふうに呼んでいます。でもスタートするってなかなか難しい訳です。今までなぜ社会的な問題になっているかという、企業でも上手くいかないし、多分行政も上手くいっていない。今の社会の問題解決から取り残されているから社会問題の訳です。そういう人たちに対して、どういふふうな新しいサービスが出来るのかが、しかもそれを継続的にやっていくためには、自分たちでどういふふうに予算を作って、お金を確保していけばいいのか。なぜ周りの人たちがその人たちを応援してくれるのか考えた時に、単純にこの人たちにお金を出して投資したら、リターンが返ってくる。だからお金出すよって訳じゃないのです。何かその人が取り組んでいることが、地域のために役立つのではないか、自分自身もそういうことに共感した、では何か一緒に問題解決していこうかと考える。そこでネットワークが生まれる。仲間を作ることが何か新しい活動する時っていうのは非常に重要な訳ですよ。

例えば、色んな人が参加するためのきっかけとしてイベントだったり、ワークショップだったり、一緒に考える勉強会だったりとか、そういう機会をうまく利用する。自分でプロデュース出来るような人は、事業家として成功していく、地域活動だとかNPOとしても成功をしていく訳です。でもいくら頭の良い人がして、一生懸命プランとか作って、これだけやれば問題解決していくはずですよとやっても、人と一緒に何かをやるとか、チームを組むとか、色んな人と現場を体験するとかそういうことが弱ければ、なかなか新しい活動って始まらないのです。案外、今の社会の中で経験したり、考えたりする機会が無

いかかもしれない。そういうことを体系的にプログラムとして提供出来ないかなということで、エンパブリックという会社を作りました。

テーマとして市民社会のバリューチェーンをプロデュースするということを掲げています。バリューチェーンという言葉、ビジネス用語ですけど、バリューチェーンというのはどういうことかということ、例えばメーカー企業があります。メーカーの中に仕入れの仕事、製品の企画という仕事があって、製造する仕事があって、物流して販売してアフターサービスするという一個一個の仕事がある。その時にその一個一個の部署の仕事っていうのが、それぞれで完結していてあまりそこで相互作用がなければ、やっぱりその会社って利益が出ないのです。利益が出る会社というのは、一個一個の仕事が充実するってことも大事なのだけれども、それ以上に仕入れ部門、企画部門、製造部門、流通部門、販売部門、アフターサービス部門が連携し合って、相乗効果を出しているようなそういうふうな会社の方が利益が出るのです。バリューチェーンとは価値の鎖ってという意味です。ひとつひとつの活動とか会社の中での活動が、いかにつながっているのかということが利益を生む上では重要だという考え方です。

地域社会も同じだと思うのです。実は一個一個、色んな良い思いを持っている方はたくさんいるし、色んな良い活動も沢山ある、一個一個がバラバラな資源として独立している。例えば高円寺の町で、学生が何か新しい企画をしたいなと思っている。でも商店街の人と学生の人と上手くしゃべれないかもしれない。それぞれバラバラでなかなか交流出来ないし、さて一緒にやろうとしてもどういうふうにしていいのか分からない。地域社会の中で「うちの町には、やる気のある人がいないのですよ」とか「うちの町は何もないのですよ」という町が全国に沢山あるのです。実はどんな町にもやりたいなと思っている人、何か知恵とかアイデアを持っている人、何か自分で小さい活動をしている人が絶対いるはずではないですか。その人たちがどういうふうにつながっていけば、一番相乗効果が出て、その町全体にとってハッピーなことが生まれるのか、そういうことを実践出来るようなワークショップとかプログラムを組成して皆で考えていけばよいと思います。

では、つながり作りをする場合、対話の場が大切だとか、もっとつながろうよっていう考えが出てくる。その時に地域や職場、人と人のつながりが弱くなっているって指摘されることって沢山あると思います。どんな時に人と人とのつながりが弱くなっているなと感じますか。

Aさん：よく巷で言われていることは、隣は何をする人ぞ、ということです。自分は何をしているのか、他人とは話していない。しかし、隣の人が何をしている人なのか興味はある。引越しをした時に隣に挨拶に行ったのですね、そう

したところ、「あいさつなんてしに来なくてもいいのに」と言われた。

広石：逆に迷惑がられたって話はよくありますよね。

若い人でも引越しをしたから、挨拶しようと思って行ったのに、隣の人は別に・・・みたいな感じだったと言っている人もいます。つながりってことはどんどん薄れてきているかもしれません。

一回きりの出逢いってあります、例えば勉強会に行きます、30人とか50人とか集まって、講演の話を聞いた。その後終わってから、さよならと散っていったら特につながりは残らない。その後に友達になって、1回だけのイベントなのに、その後メールのやりとりとか何か紹介し合ったり、イベントも出来るかもしれない。でももしかしたら同じイベントや交流会という時も一回きりで終わる出逢いもあれば、継続的なふれあいが出来るかもしれない。そこは何が違うのか。同じ交流会といっても何か仕掛けが違うのかもしれない。その違って何かなということ、皆さんにこの1年間を通して見出して頂きたいと思います。

単に人と人が集まればつながりが出来る訳ではないのですよね。何かひとつ仕掛けがあるのではないかな、特に今の社会では。それが何かなというのを一年間掛けて、皆さんが実践しながら、トライ&エラーをしながら考えていく、そういうふうな機会を作っていけたらなと思っています。

<大人塾夜コースのスケジュール>

この一年間、どういった内容のプログラムかと言いますと、5月21日に開講記念講演があります。そして今日がこのプログラムの第一回ですけれども、次回は樋栄ひかるさん、彼女は色んなワークショップをやっている方で、実際に皆さん自身が今日はまだ初めて集まって、緊張もしておられると思います。人と人とのつながりって自分たちが体験してみないと人に伝えることは出来ないと思うので、来週はワークショップを通して、皆さん自身が仲間になっていく。そういうようなことをしたいと思っています。ソーシャル・アクションとはどういうことかな、例えばつながり作りとはどういうことかな、という基礎的なことを考えてみたいと思います。

それから Step2 と書いてあります、7月から9月にかけてです。ひとつ大きな山場として、9月10日にまち歩きをしてみましようということを考えています。皆さん自身で、地域の中にある今ある課題、単に観光的なまち歩きをして、きれいですねというだけではなくて、皆さんが次回、その次の回にブレイクを作ってみて、地域とテーマを決めて、実際にまち歩きということを企画してみよう。いきなり集客が出来ないかもしれないので、まずはこのメンバー同志、

お互いの中で紹介し合おうという形で、実際に 9 月にやってみたいなと思っています。それを通して、プログラム作りとはこういうことなのかなとか、例えば地域の課題はこういうふう考えたらいいのかな、そういうようなことを深めていく時間にしたいと思います。

それから 9 月の後半から 1 月にかけて、実際は 1 月の 28 日が大きな山場と考えていますが、その時に皆さん自身でひとつテーマを決めて、区民の人たちを募集して、一緒に考えてみるようなワークショップを皆さん自身が企画して運営するというをやりたいと思います。例えば昨年はある方がいらして、その方はもうすぐ定年になるサラリーマンの方で、地域で何かないかなと探してらしたのです。昨年の塾の中で、7 月時点でテーマとしては地域活性化に興味はあるのだけど、何をしたいかわからないという人だったのですよね。それが 7 月のある講演会で「地域に空き家が沢山あるのですよ」という話をたまに聞いた訳です。杉並で一軒家を買われて、高齢者で亡くなって、子供さんは都心でマンションを買われているので、空き家になっている家が杉並だけでたくさんある。それではその空き家をテーマに何か出来ないかなということで、夏から勉強を始めたのです。そして 8 月、9 月と世田谷に行って、色んな他の地域の活動を調べてみて、そして 12 月にチーム 5 人で企画をして、自分たち自身でワークショップをしたのです。そこへ 30 人の人が参加して下さった。「実は私の住んでいる地域ではこういう問題を抱えているのですよ」とか、「留学生の人達に使って欲しいのだけど、方法がなかったのですよ」と地域の中でニーズがあるということに気付かれた。そして今では NPO を立ち上げて、なんとかしようと始めて活動しておられます。

必ずしも NPO を立ち上げることが目的ではなくて、皆さんなりの形で良いと思います。そうして自分で新しい団体を立ち上げて良いし、起業するのも良いかもしれません。一方でやってみるからこそ、自分でやりたいボランティアが見付かるかもしれませんし、もっと自分で勉強する必要があると思われるかもしれません。昨年の受講生の中でも、自分は定年した後、実家に戻って地域のことをやりたいと思いましたという方もおられました。ですから皆さんひとりひとり答えは自由です。何を見付けて頂くかは、皆さん自身の答えで結構だと思っています。ただその中で先程申した通り、つながりを作るとか地域考えるということは、頭の中で考えるだけでは分からないではない。実際に町へ飛び出してみ、一緒に何かをやってみることを通して、皆さん自身が体感して頂きたい。それが皆さんにとっても良い機会なり、杉並の町の人にとっても良い機会なり、地域全体が良くなっていくきっかけにしたい。そういうふうな一年間のプログラムを考えています。

手塚：部分的に最後の方のお話だけさせていただきますが、お手元に冊子がありますよね。昨年度の修了生の色んな考えとか、思いを冊子にまとめてあります。そのような形にまとめるプランを考えておりますので、最後にワークショップをやって、何か発見したものを発表したり、少しでも形にして残すということを行います。

大人塾は1年間ですけれども、最後3月3日ですね、昼と夜の合同発表会のようなものを行っております。そちらの回に昨年までの修了生の方が沢山応援に来てくれて、お客さん代わりに楽しんでくれます。昨年までの修了生で約500人弱いるのですね。今年度の受講生同志も連絡を取り合うことがあると思いますが、過去7年間の修了生の方と触れ合う機会があると思います。勝手に色々な活動を始めて、グループ化して年度を越えて、趣味でおちあっているようなケースもありますので、今年度のメンバーだけでなく、大人塾連として活動したりしています。中曽根さんの方では、大人塾連として何かありますか。

中曽根：大人塾連としてグループで何かひとつをするということではなくて、色々な人がゆるやかにつながっているネットワークというのが大人塾連です。実際にどんなことをやっているかというのは、これから始まる中でその修了生を通じて、「こういう活動があるから一緒にやりませんか」というのもありますので、その中で積極的に参加していただいたりするといいかなと思います。

例えばですね、阿佐ヶ谷の七夕まつりというのがありまして、ハリボテを毎年出しております。昨年度はバーバパパファミリーを皆で作りました。七夕まつりを歩いてみると、段々と、たこみみたいな形が増えているのが分かると思うのですが、結局、作り手がいないとですね、取り敢えずなんにもないと寂しいということで、足がぴろぴろしているものを飾っているのですが、それは、もう作れなくなっているところなのです。そういうお店のひとつと協力をして、修了生が作っています。段々、何年も作っていると、昨年は天沼小で子供たちがハリボテを作りたいと言って、ハリボテの指導に学校に行ったりしていました。

あるグループはですね、庭になっている夏みかんがありまして、大きな庭のあるお宅はお年寄りが多い。それは放っておくと落ちて、道端で腐るというのを見て勿体ないなということで、そういう誰も採らなそうなお宅に声を掛けて、それを貰ってきました。それを利用してマーマレードのジャムを作って、どんまい福祉工房といって、障害者がパンを作っている工房があるのですが、そこと連携し循環させています。どんまい福祉工房は、座・高円寺という施設の入り口と高円寺の商店街の中にお店を持っているのですが、そこでもったいない倶楽部のジャムを販売し始めております。またこの活動紹介パンフレットは、

有名焼酎の写真を撮っている方がメンバーのつながりの中において、写真をとってくれたとのこと。本当にきれいな写真を使った、目立つパンフレットを作りました。

他にも色んな活動はあるのですが、町の中って色々を見ていくと、自分の特技を活かしたり、食べるのが好きな人だったら美味しい物を作りたいなとそういうところから発想をして、色んな活動が必要とされている。そういう活動って高齢者の問題を解決しながら、子供の問題も一緒に解決していける、など課題が重なりあったりしながら解決していくケースが沢山あると思います。そういう皆さんひとりひとりの日頃感じているものが、上手くプランとしてまとまっていくと、持続性のある身近に感じられる活動になっていくのだなと思ってきております。ちなみにジャムの活動は、それを応用して、今度は梅を貰って梅干しを作るといった人も出てきておまして、あちこち広がってきて楽しいなと思っております。

手塚：ありがとうございました。他に音楽の人たちが2008年度と2009年度の修了生にいまして、ライブハウスを借りて阿佐ヶ谷のジャズストリートの時に、普通のプレイヤーとして演奏会をやっております。

食育に興味をお持ちの方が、学校で授業でやるパッケージを考えて、実際に食育の授業をやってみたり、現場に行くと。すぐには経験しづらいですけども、少し経験を積み重ねていく内に、そういう方もいらっしゃると思いますので、機会があれば後話をさせていただきます。

続きまして自己紹介タイムになりますが、その前に広石さんに質問がある方はいらっしゃいませんか。

受講生：私は横文字に弱くてですね、ソーシャル・アクションとはどういう意味でしょうか。

広石：ソーシャル・アクションという言葉は、何か自分なりの社会活動を始めようというふうな意味だと思っています。社会活動というと硬い感じがして難しい感じがするかもしれませんが。自分が地域の中で自分なりに社会貢献的な活動を始めようという意味で、ソーシャル・アクションという名前を付けています。何が社会活動か支援活動かという、また難しい話になってきますが、私たちが思っているのは地域の中でこういうふうにいる人とか、こういうところがもっとこうなれば生活が良くなるのになと皆さん自身がそう感じたことで、何かそれをよくしていくような行動を起こそうということをソーシャ

ル・アクションと考えています。

他にもこういった言葉で、私たちが気付かないで使っている言葉で分からない言葉がありましたら、気軽に質問をしてください。僕や手塚さんは学習支援者という立場ですので、皆さん自身がやっていくことのあくまでもサポートなので、分からないことはなんでも聞いてください。

【自己紹介タイム】

テーブルごとに自己紹介をします。ひとり 90 秒の持ち時間で、講座参加のきっかけ、そして町のつながりの思い出を話す。

大人塾参加のきっかけ

色々な人に会いたかった

座・高円寺に入る為

区報で知って

先輩の勧め

つながりを学ぶ

大人社会のつながりから

生涯学習の場を体験したい

色々な世代と知り合いたい

つながりの場を作りたい

楽しく地域と付き合いたい

町のつながり思い出

町の歴史

東京の怖いイメージ

高校時代に盆踊りを主催した

よく飲んでいた

飲み屋の付き合い

【席替えの後、沿線別に集まる】

杉並区内で関わりのある沿線別に集まり、テーブルごとにアイデアを出す。

例) 思い出のある場所、職場、自宅がある沿線

A. 丸の内線、西武線系

B. 中央線系

C. 京王・井の頭線

D. その他

～ アイデア出しに 10 分 ～

東京から京都に行く 30 人乗りの長距離バスに乗ることを設定。

通常はバスの乗客はお互いに「つながり」の感覚はなく、期待もしていない。

どんな条件がそろえば、またはどんな出来事が起これば、お互いに「つながり」

感覚を持ったり、コミュニティのような一体感を感じることが出来るのか。
10個考えてみる。模造紙に寄せ書きのスタイルで書いてみる。



主体的な言動で環境が変わる面

- ・ 寸劇を作る
- ・ カラオケ、ゲームなど
- ・ お菓子を回す

アクシデント、偶然等で環境が変わる

- ・ 乗客全員の方言が一緒だった
- ・ 共通の友人、知人が一緒
- ・ 病気の人がいた
- ・ 運転手が道を間違えた、バスジャックなどの事件
- ・ 皆で日の出を見た
- ・ 年始の車内テレビで紅白歌合戦を一緒に観た
- ・ サービスエリアで食事を一緒にした
- ・ 子供が生まれる
- ・ 面白い人が一人いた
- ・ 地震、台風などの自然災害

【コミュニティとなる要素】

- ・ 共通の目的、課題（ビジョン、達成したいこと）を持っている
- ・ 一定の時間を共有する
- ・ コンテキスト（文脈）、歴史を共有している
- ・ 参加者の相互に関係がある
- ・ 全体の意思決定に何らか関わっている

このように皆さんに色々と考えていただきました。先程のお話のように、同じマンションに住んでいても、お互いのことを知らないというのがありました。

特に賃貸マンションで暮らしていた時というのは、あまり周りとの関係がないのだけれど、何か出来事があればつながるといえることはあるかもしれません。そういった意味では、つながりを作るというのは、今の長距離バスのようにハブニングなどを考えていただいたのですが、そういうことを意図的に取り込むことを通して、出来るのではと思います。

そういった意味でコミュニティを作る要素というのが、ひとつの共通の目的や課題にみんなに対応したというのがありますね。一緒になって乗り越えようと考えたり、例えばみんなの行く場所が京都の同じ場所に観光に行くことや、もしくは乗客の全員がFC東京のファンで、全員がサポーターで応援に行くことが分かったらすごく仲良くなるとか。共通の目的や課題を持っている時というのが分かれば。最初にバスに乗った時には黙っているのですよ、言わないですよ、わざわざ。その中の誰かがFC東京の試合に行くのだという話をしている、それを聞いて僕もですよとなれば、一緒の目的があるのだな、共通しているというのが分かるかもしれない。そういう時に誰かがつぶやかないといけない。

それと一定の時間を共有するということがすごく大切で、これから長い付き合いになるなという飲みに行くけれども、これが一期一会の出逢いだとわざわざ飲みに行かないと思うのですよね。例えば賃貸マンションだと、隣りの人にわざわざ挨拶に行かなくてもいいと思うのだけれども、分譲マンションだとこれから5年、10年と一緒に暮らすかなと思えば、ちょっと挨拶をしておこうかなというふうになると思うのです。同じような時間を過ごすのだなということが分かった時に、友達関係というのを作ろうかなと思うかもしれない。これまでこの人はどんなことをしてきたのかなとか、例えば出身校が一緒だったでもいいじゃないですか。東京から京都に行く長距離バスに乗っていて、たまたま同じ京都の高校出身の人ばかりだった。過去の歴史が一緒だったことが分かった瞬間に、急に親近感を覚えることがあると思うのです。

それから三ヶ所の相互に関係があるというのはすごく重要です。最初は全員ではなくても、ひとり大阪のおばちゃんに乗っていて、例えば餡を配ってくれたりして、お互いに話したりとか。例えばサービスエリアで一緒にご飯を食べたとか、何か相互関係が少しずつ生まれていくということが、すごく大切なことかもしれません。あと全体の意思決定が何かに関わっているということがあって、例えばこれからバスに乗ります。サービスエリアが6カ所あって、トイレ休憩は一回しかしません。どこのサービスエリアに止まるかを皆で決めて下さい。多分、どのサービスエリアで止まるかを真剣に議論すると思うのですよね。そういうふうに皆で何かを決めなくてはならないとなった時に、関わっていくし、自分にとってトイレが早い方がいい、遅い方がいいって自分の利害に関わっていくことについて、意思決定して議論しますよね。今日は簡単な例で、皆さんに考えいただきます。つながりをつくるということはこれから一年間のテーマなのですが、人と人がつながりやすくなる、何か一緒にやろうかな、手を組んでもいいかな、話しかけてみようかなとか他の人の話を聞いてみたいと思うきっかけというのはどうしたら出来るのかなということだと

思います。例えば僕がテレビで見た居酒屋さんで、6席しかないという訳ですよ。それで居酒屋ってひとりで入ったら、メニューって一品か二品くらいしか頼めないではないですか。その居酒屋さんでは料理は全部共通なのですよ。ひとりが頼んだら、全員でシェアする決まりにしているのですね。だからひとりでふらっと入っても、10皿、20皿ってメニューが食べられるのですよ。なかなか素敵だと思いませんか。ひとりで居酒屋入ったら、一品か二品頼んで、ほっけとか頼んだらもうそれだけで終わりみたいな感じになるのに、そうすれば、10品とか20品とか食べられるのですよ。だから皆さんで料理代はシェアしましょうとかね。ちょっとした仕掛けがあるだけで、実は町の中でそこが一緒にご飯を食べる経験というのを作り出して、それから地域の中でつながりを作っていくのかもしれない。

そう考えていけば、色々あるのかなと思うのですよ。これから是非、皆さんがプログラムを作っていたりしていますが、色んな場面でこのグループは仲がいいなとかね。このグループは関係性が薄いなとか、そういうところは何が違うのかなとか、どういうきっかけでこのメンバーは話し始めたのだったかなとかそういうことを少しずつ感度を上げていくと、色々なプログラム作りに参考になるのではないかなと思っています。

そういった意味で、試しに今回は長距離バスを例にして皆さんに考えていただきました。普段は長距離バスの中で、何か出逢いがあるって思っていないではないですか。でもそこにちょっとした仕掛けがあれば、全然期待をしていなかったのに、すごい友達出来たという体験に変えていくことも出来るではないですか。そういった意味では、地域の中でつながっていないなとか、このマンションにつながりがないなということも、ちょっとした仕掛けを入れることによって、こうやってつながれるのだという体験を是非、皆さんで積んでいく。それを実際にトライ&エラーをしながら、いいものが出来ていけばとても素敵な大人塾になるのではないかなというふうに思っています。

来週は、身体を動かすワークショップをやりますので、動きやすい服装が良いですね。こういうふうにして人と人は仲間になっていくのなということ、1度体験をしてもらって、その後にプログラム作りの方に組み込んでいこうかなと思っています。これから1年間、よろしくお願い致します。

手塚：ありがとうございました。長距離バス、私だったら降りるインターの直前のトイレが一番良いかなと考えたのですけども。今日は聞いた話の中でもすぐに出来ることもありますね。私が海外に行くと、一番感じるのはエレベーターですね。外国人はすぐに話しかけるのですね、そして冗談を言う。日本人は

シーンとしていますね。なんで日本人はエレベーターで喋らないのかとアメリカ人に言われたことがありますけれども、乗ってみたらまず自分から声をかけてみる。赤ちゃんが居たら、「今、何か月？」ってききますよね。年取っている方は結構平気で出来るのですが、若い方は勇気がいるかもしれません。エレベーターは結構、気軽に自分から声を掛けられる仕組み、箱の中ですけども試してみるといいかもしれません。

来週は動くといっても、テーブルがなくて机を使いません。書き物をするといってもメモをとるくらいです。しゃがんだりとかそういうことがあるくらいで、激しい運動をする訳ではありませんが、元気な先生が来ますので楽しみになさって下さい。事務局から連絡がありますので、もう少しお待ち下さい。

事務局：お手元にあります新聞をご覧ください。こちらは5月21日に行われた大人塾の記念講演会の新聞として発行しております。今回の分も来週作ったものをお渡ししますが、写真を掲載する形になります。顔を載せて欲しくないという方がいらっしゃいましたら、遠慮なく事務局の方へお申し出ください。毎回この新聞を発行しますので、欠席された場合でも新聞を見ていただければと思います。それから黄色のいっせい名刺交換のお願いですが、これは去年もやったもので、この台紙にご自分のお名前とか自己PR、好きなこと、興味分野、座右の銘などどんなことでも結構ですので、書いてください。3回目にオフィシャル交流会という講演があるので、その時に全員の方にこのコピーをお渡ししたいと思いますので、その時まで書いて頂いて提出をお願い致します。書き方メモがこちらに書いてありますので、参考にさせていただいてどんな書式でもイラストを描いていただいても構いません。

それからオフィシャル交流会というのを毎年実施しております。今年は第3回目の6月22日を予定しております。現在、幹事をやっていただける方がいらっしゃいましたら、事務局の方へお越しいただければありがたいと思います。